

令和4年度 学校運営協議会自己評価

浜松市立曳馬中学校 学校運営協議会長

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- 課題について、学習・熟慮し討議することで、互いの立場や果たす役割についての理解が深まった。
- 家庭や地域とともにある学校づくりの推進として、地区社協などとの連携を進めている。いじめ問題や不登校対応などは家庭環境も影響が大きく、民生委員やSSWの活用が重要である。
- CSを充実させることについては、これからさらに熟議し、行動に移せるようにしなければならないと思う。

<評価項目2> 学校運営に資する活動について熟議を進めることができたか。

- 保護者と生徒のアンケート結果について熟議したが、分析したい内容によって時系列での変化をみるのか、異なる年度の同学期の比較で変化を見るのか、視点をはっきりさせなければ傾向がつかめないという指摘をした。
- 協議会の前に授業参観があるため、熟議する時間が少ないと感じる。2時間程度を協議する場とすれば、もっと多くの発言や意見が出ると考えられる。
- 地域人材活用について、もっと多くの意見を出すべきだと感じた。

<評価項目3> 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

- ◎CS導入の成果を認識して、地域との連携に関する成果のみならず、保護者や地域からの苦情減少、生徒指導上の課題解決、学力向上を目指す。
- ◎不登校生徒の数が増加傾向にあることが心配されるため、減少に向けて取り組む。
- 学校運営にもっと地域人材を巻き込んでいくこと。
- CSの活用、地域人材の活用・掘り出し方を具体的にする。3年目のため、結果を出す年度となるため、2年目最後の会議が大切となる。

<評価項目4> 協議会の取組や学校運営に資する活動について、教職員、児童生徒、保護者、地域に周知することができたか。

- 学校教育活動アンケートについて、保護者が質問に対してそれだけの理解をして答えているのか疑問があるため、質問の意図等を知らせる必要がある。
- 曳馬協働センターだよりにて、コミュニティスクール設置の紹介および学校支援活動について支援してほしい内容が具体的に示してあることで、ある程度は地域に広がったと考える。
- 地域住民や保護者等に対して、取組の必要性や成果を広く周知するなど、今後学校への理解を促す環境作りが重要である。
- 周知という点においては、まだ不十分であると考えられる。